

かけはし

2023
Vol. 93
March

Instagram 開設!



演奏会で本物に触れる体験を

尾西第二中学校 2022.11.30

2学期の期末テストが終わり、ホッと一息ついた中学生たちが「トトさんとアンジェロさんの演奏会&講演会」でイタリア文化に触れる交流をしました。

アンジェロさんのアコーディオン演奏が始まり、体育館に集まった全校生徒が生地の楽器の音に引きつけられていると、会場の後ろからヴァイオリンを軽やかに弾きながら愛称「トトさん」とサルヴァトーレさんが登場。自分のすぐ横を歩いて行く演奏家に驚きながらも、表現豊かなイタリア音楽や細やかな指の動きに引き込まれていきました。

吹奏楽部とのコラボ企画もあり、生徒の手拍子から生演奏に魅了されている様子が伝わってきます。

演奏の合間には、トトさんの出身地イタリア南部シチリアとアンジェロさんの出身地北イタリアピエモンテのご当地自慢がありました。トトさんから、夏休みが6月から8月末まで3ヶ月もあり宿題もなく楽しかった子供の頃の話の話を聞きました。

また、触ってみたいと手を上げた生徒が、ク

ラシックヴァイオリンと電子ヴァイオリンを直に持たせてもらい、どんな音が出るのが試したり、音の特徴の違いを弾き比べたりもできました。

最後に、二人から未来をつくる皆さんに伝えたいこととして、「ロシア上空を飛行機が飛べなくなり、文化的に似たところがたくさんあるイタリアと日本は以前より遠くなってしまいました。みなさん、前を向きましょう、平和のためにがんばりましょう。」というメッセージがありました。

イタリア文化に触れ生演奏の美しい音色に感激した中学生たち。これからも本物に触れるいろんな体験をして興味を広げていってほしいです。
(伏原)



日本語の教え方セミナー

市役所本庁舎11F 会議室 2022.12.2、9

今回のセミナーでは、公益財団法人名古屋YWCAの和田貴子さんが講師となりました。たくさんの方々が参加した中、既に日本語教室で日本語を教えている方や外国人と関わりがある方、直接的な関わりはないけれど日本語教育に関心のある方など様々でした。

初めに、アイスブレイクとして「権利の熱気球」ゲームに取り組みました。見知らぬ国で生きていくために、言語、仕事、人間関係のうちどれが最も重要かという話し合いです。どのグループの方々も各々の選択とその理由があり、活発なディスカッションが行われました。

日本語教育を取り巻く状況についても説明がありました。2019年に公布・施行された「日本語教育の推進に関する法律」によると、日本語教育を行う責務が国以外に地方公共団体や事業主にもあります。しかし、義務教育を始めとする学校教育においては未だ日本語教育が組み込まれていません。



阪神淡路大震災以降、「やさしい日本語」の普及に注目が集まるようになりました。日本語の難しさには、語彙の多さ、漢字、カタカナ語、敬語、オノマトペ、表現の曖昧さがあります。そうした難しい要素を極力避けた日本語のことを「やさしい日本語」と言います。災害などの緊急時には大切な情報を簡潔に得るために「やさしい日本語」が必要とされます。

私自身、今回のセミナーを通して日本語の難しさには環境による差が大きくあるということを感じました。例えば、ヨーロッパ系言語とアジア系言語では文法が大きく違うため、どの言語が1番難しいということは一概には言えません。日本語を話す機会が多い留学生と外国人コミュニティで生活している外国人とでは、もちろん日本語能力の差があります。外見や第一印象で日本語が得意・苦手だろうと推測するのではなく、実際に会話をして相手の日本語能力を理解することが円滑なコミュニケーションに繋がります。
(うさみみ)



名古屋YWCA
(日本語学校などを行う国際NGO)
講師 和田 貴子 氏

日本語ひろばジュニアクリスマス会

神山公民館 2022.12.17

神山公民館にて、子ども向けの無料日本語教室である「日本語ひろばジュニア」、「寺子屋いちみん」に通う生徒とその保護者を対象としたクリスマス会が開かれました。

最初に全員で自己紹介を行い、参加者15名が交流を深めました。そして、国際交流員の2人の自己紹介のあと、国際交流員のアリスさんから、ニュー



ーランドの伝統的な遊びである「ポイ」の説明を聞き、その後、実際にポイを体験しました。ポイとは、ひもの先にボールをつけた道具を、歌や踊りに合わせて回す遊びです。ひもを振るタイミングや、ボールのつか

み方には工夫がいりますが、参加者の皆さんは上手に遊んでいました。



体験が終わると、チームに分かれて伝言ゲームとジェスチャーゲームに取り組みました。チームのメンバーと協力して、正確に言葉を伝えたり、動作を言い当てたりしました。

続いて行われたビンゴ大会では、早く一列揃えた人から順番に景品が配られました。そして、最後に全員でクリスマスソングを歌い、会場は和やかな雰囲気になりました。

(内山)

ヴェネチアだけじゃない!イタリア・ヴェネト州を知ろう! イタリア文化理解セミナー

市役所本庁舎11F 会議室 2023.2.17

「イタリア・ヴェネト州を知ろう!」というタイトルで、国際交流員のキアラさんがセミナーを開催しました。ヴェネト州には7つの市があり、それぞれの市のランドマークや名物について紹介されました。特に、ヴェネチア市とトレビエゾ市についての話が興味深かったです。



ヴェネチア市は「水の都」として日本人の間でも有名で、毎年たくさんの観光客が訪れます。サン・マルコ広場が街のシンボルとなっていますが、キアラさんが通っていた大学の卒業式はその広場で行われました。また、2月には「ヴェネチアカーニバル」というお祭りが開かれ、白い仮面と伝統的なドレスを装った人々があちこちで見られます。ケーキのようなフリットツレや、クッキーのようなクロストリという伝統的なお菓子も食べられています。

トレビエゾ市は2013年に一宮市と友好都市提携を結んだ都市です。今年2023年は友好都市提携10

周年で、両都市にとって記念すべき年です。トレビエゾ市は中世の街並みが美しい街で、聖トマーソ門やドゥオーモ教会、ツレ・チーヴィカという時計台が残されています。また、市境には「市壁」も残されており、街全体が石の壁で囲まれています。実は、日本でもブームとなったティラミスはトレビエゾ市が発祥であると言われていています。一般に、イタリア人の中ではティラミスの発祥地がヴェネト州かフリウリ・ヴェネチア・ジュリア州かで論争があります。

セミナー全体を通して、参加者の方々は関心を持った様子で聞いていました。質疑応答の時間も、たくさんの質問が時間いっぱいまで挙がりました。イタリアと日本の三英傑など、日本に関連した質問も多かったです。自然や街並み、食べ物などの写真を紹介していたので、イタリアの魅力がより鮮烈に伝わりました。海外旅行を考える時には、イタリアが旅行先の有力候補になることは間違いありません。(うさみみ)



国際交流ふれあいウォーキング

大野極楽寺公園周辺 2022.10.22



秋の一日ウォーキングで国際交流

この日は風もなく、大野極楽寺公園には朝からたくさんの方が来ていました。久しぶりに行く、交流ウォーキングは外国人21人、日本人23人の、計44人の参加者でした。ボランティアはウォークラリークイズや、案内を担当する方々で、緑色のジャンパーが良く映えていました。

10時15分頃から第一陣のホツマインターナショナルスクールの、留学生16名が受付にきました。

スリランカ、バングラディッシュ、インドなど来日して5ヶ月目と言っていました。上手に日本語を話していました。スリランカの方に、「アユポアン」とスリランカの言葉で、「こんにちは」と挨拶したら、とても笑顔になり、日本人から自国の言葉を聞くことが無いようで驚かれました。軽く準備運動をした後、日本人の参加者と、外国人の参加者がペアで、ウォーキングに出発しました。

私はこの学生さんたちとは違った班で、一般参加のペルーの家族と、1歳1ヶ月のベビーを連れて日本人のお母さんと出発しました。ペルーの家族は3人で参加され、来日して21年になるらしく日本語は何の問題も無いようでした。ママは当協会ボランテ

ィアに登録されていて、今回はパパと、19歳の娘さんも参加されました。娘さんが小さい頃には、ここに何度も来たと話していました。

所々に、クイズの場所があり、「この会はどこの団体が主催していますか?」という問題で、「一宮市国際交流協会」と難なくクリアでした。日本に住んでいる娘さんはペルーにはもう2回行っていて、スペイン語は日常会話なら大丈夫とのこと。

将来は外国から来た人が困らないような、サポートの仕事がしたいと話していました。会話は進み「じゃがいもや、トマトはペルーが原産地よ」とか、「マテ茶や、コカ茶をペルー人は日常的には飲まない」とか、ペルー料理で「新鮮な魚介類がたくさん入った、セビーチェはおいしい」など、さまざまな話が聞けました。途中樹冠タワーに上って木曾川も眺めました。あっという間にスタート地に帰って来て、最後のウォークラリー問題もクリアでき、全問正解の粗品を貰って無事解散ができました。ベビーちゃんもママの抱っこ紐の中で泣くこともなく、秋の一日を満喫できたかな?

(みかん)



地球あっちこっち

活気にあふれた国、ベトナム

コスロヴスキー彩

美味しい食べ物、可愛い雑貨などで、近年ベトナム旅行が少しずつブームになっています。夫(ドイツ人)の駐在でベトナムに住んで約8年の私が、この国の魅力を3つご紹介します。



1つ目の魅力は、ベトナムはとても活気のある国だということです。平均年齢が31歳と若く、経済発展真っ只中の新興国です。私の住む首都ハノイは、インフラ整備など急速な都市開発が進んでいます。この8年で、ハノイにはいくつものショッピングモールがオープンし、生活は年々

便利になっています。開発が進む一方、旧市街や市場など昔ながらのベトナムを味わえる場所もたくさんあります。市内はバイクがたくさん走っていて、4人乗り、5人乗りバイクも見かけます。ハノイの人々は、みんな毎日を精一杯生きているのに、元気で楽しそうです。そんな人たちから私も日々元気をもらっています。

2つ目の魅力は、人がとても親切なところ。街中で困っていると、近くの人たちが必ず駆け寄って助けてくれます。日本よりひったくりが多いので気は抜けませんが、一般的にベトナム人はとても親切ですし、特に



子供には優しいです。子供を連れていくと、老若男女問わず誰もがあやしてくれるし、飲食店では私の食事中に店員さんが子供を抱っこしていてくれることもありました。少しおせっかいなくらい世話好きな人が多いのですが、ベトナムの人々が親切なところが、私がベトナムを好きな1番の理由です。

3つ目の魅力は、食べ物が美味しいことです。地域によって様々な食べ物があり、米麺の種類も豊富です。私のお気に入り、ブンポーナンポと呼ばれる牛肉麺で、甘酸っぱいタレが最高です。北部のハノイに来たらブンチャーというつけ麺も欠かせません。ベトナムで美味しい食べ物に出会うには、高級料理店ではなく、ローカル店に行くことです。店構えはお世辞にも綺麗とは言えませんが、本当に美味しい食べ物があります。



親切な人々と美味しい食べ物に囲まれたベトナム生活、不便なことももちろんありますが、長く住まわせてもらえて感謝の気持ちでいっぱいです。

ミニ・フォトサロン

記事に入りきらなかった国際交流協会のイベントを紹介します。



【名古屋大学短期プログラムホームステイ】 3年ぶりにホームステイを開催しました。

親子で国際交流ボウリング

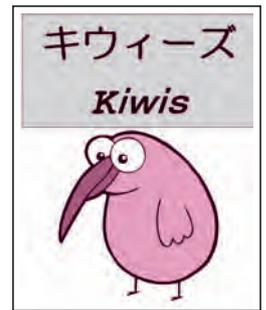
アソビックスびさい 2023.1.22

一宮市に住む親子と、地域在住の外国にルーツのある方の合計40名が、10チームに分かれて、チーム対抗でボウリングを行い、得点を競い合いました。

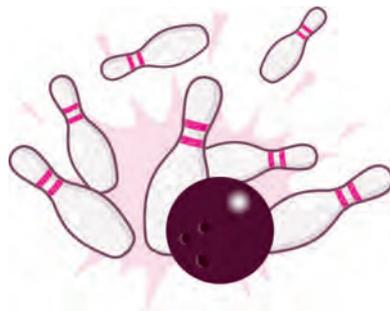
ボウリングは全部で2ゲーム行われました。最初に練習を行ったあと、1ゲーム目を行いました。そして、中間発表のあと、2ゲーム目を行いました。ストライクが出たときに、チームのみんな喜び合っている姿には、取材をしていた私も思わず感動してしまいました。そして、早くゲームを終えたチームは、他のチームがゲームを終えるのを待つ間、参加者同士で楽しそうに談笑する様子が見られ、会場の雰囲気は和気あいあいとしていました。

チーム名には「ベアーズ」や「シープ」など様々

な動物にちなんだ名前がつけられていました。国際交流員のアリスさんは出身の国、ニュージーランドの鳥であるキウィにちなんだ「キウィーズ」の応援に力が入っていました。



そして、最後の結果発表ではアリスさんの応援もあり、「キウィーズ」が優勝しました。参加者は景品をもらい、一緒にボウリングを行ったチームのみんな写真撮っていました。結果発表の際、順番にチームの名前が呼ばれると、みんなで拍手を送り合う姿には、私も楽しい気持ちになりました。(内山)





おとなりさん



ネパール国ルンビニ生まれの、カandelサンディーブさんです。彼はインド・ネパールのレストラン・クスの店長をしています。

2014年に江南市布袋に単身で来日しました。各務原のカレー屋で働いてから四日市に移り、そこで奥さんと呼び、2人のこどもが生まれました。出産では各務原のカレー屋で働いていた時の知り合いに、サポートをしてもらいました。看護師さんがとても優しく、病院は綺麗だし本当に良かったそうです。来日当時、日本語はまったく分かりませんでした。今の日本語は、働きながら覚えました。しかしネパールは小学校から英語と、ネパール語の授業があります。算数、理科、歴史、

保健などは、英語での授業です。だからネパール語、英語、ヒンディ語、日本語が分かります。もし日本語が分からない時は、英語やケイタイの翻訳機を使います。今はもう日本語の負担はあまり感じません。

四日市にいるとき、自分も店が持ちたくなり、色々探して一宮に辿り着きました。周りにカレー屋が少なく、自分の生まれたルンビニにも似ていました。ルンビニは仏陀の生誕地で、お寺がたくさん有り、日本からの観光客もいます。

得意料理は、カレーはもちろんですが、肉料理です。鳥のミンチを焼いた、シーケケバブや、ドライフルーツペーストで漬け込んで焼く鶏肉です。オニオンライス、ガーリックライスも美味しいですよ。ネパールの主食は米です。ルンビニでも米を作っています。店では日本人向けにカレーの味はマイルドですが、母国のカレーはとても辛いです。ぜひ一度本格的なネパールの味に挑戦してください。(みかん)

iia information

iia公式「Instagram」アカウントの運用を開始しました。

写真・動画共有SNS「Instagram」を協会で開設しました。

是非フォローをお願いします。

アカウントを盛り上げるため、みなさんの「インスタ映え」しそうな国際交流写真を募集します。

①撮影日②シチュエーション③撮影者名④画像1枚(3MBまで)⑤キャプション文をつけて、「138の国際交流」と明記のうえ協会までお送りください。

MAIL: kokusai@city.ichinomiya.lg.jp



*iiaでは、協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。また、一宮市の国際交流の中心となって活躍いただく親善ボランティアも随時募集しています。詳しくはiia事務局までお問い合わせください。

iia公式「Facebook」ページ

イベントのお知らせや、外国人のみなさんに役立つ情報を多言語で発信しています。

Multilingual posts about event notices and helpful information for foreign residents.



iia公式「YouTube」チャンネル

イベントやセミナーの様子などを配信しています。

是非チャンネル登録してください。



地球あっちこっち

本当にありがとうございます。 Terima kasih banyak-banyak

元クアラルンプール日本人学校長 宮谷 真一郎

「むわあとして、呼吸しづらいなあ。」

2015年4月7日。降り立った異国の地は熱気に満たされ、それまで住んでいた日本の気温とは30度も温度差のあるところでした。

「無事帰ることができるのだろうか。」

これが、私の最初の印象です。のしかかる重圧と共に全く想像つかない生活への不安を、その熱気がよりいっそう助長しました。

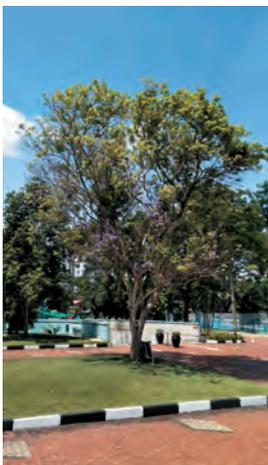
私は縁あって、マレーシアの首都クアラルンプールにある日本人学校に赴任することになりました。正式名称は「在マレーシア日本国大使館附属・クアラルンプール日本人会日本人学校」という大変長い名前の学校です。

この学校は1966年に開校し、世界90数校ある日本人学校の中でも、5番目に創立された屈指の伝統校です。長いのは名前だけではなく、通える期間も長く、幼稚園から中学校までの12年間通える学校です。それは日本の文部科学省の指導を直接受けるものの、当地では授業料で運営されるインターナショナルスクールだからです。

授業は原則日本の学校と同じカリキュラムで進めるのですが、特色ある授業も行えました。当校では、ローカル教師

による英語教育と水泳教育が行われます。英語教育では、週当たりの時間数が違うものの幼稚園年中組から中学3年生まで、習熟度に合わせたクラス編成で授業を行います。一方、水泳教育では、コーチと英語でのコミュニケーション活動を通して、水泳の技術を磨き泳力を伸ばします。当時、通っていた園児児童生徒数の合計は約900名であり、教員スタッフは約120名（現在は

学校のエントランスサークル



約半数)いました。学校自体は周囲約2kmあり、東京ドームの2個分に匹敵する大きさです。施設も充実しており、その敷地内には、幼小学部と中学部とがそれぞれに校舎を持ち、各学部には運動場、プール、体育館等が設置されており、授業における教室使用の調整が必要のない教育環境でした。目を引くのは中学部で、全面芝の400mトラックの運動場、8コースある50mプール、2000名以上収容可能な体育館を備えています。



小学部全校集会

赴任し、このような充実した教育環境に接した私は、それは先人の努力であり、マレーシアとの間に日本が築いてきた信頼関係の賜物であると気づいたのでした。子どもたちを健やかに育てることへの漠然とした不安は、いつしか「この恵まれた教育環境をいかに生かしてあげるか」という苦慮へと変化していきました。一方、学校外の生活も見守る立場にもあった私は、熱中症対策、デング熱やジカ熱などの感染症対策、イスラム過激派のテロや誘拐への安全対策など、緊張感は365日緩むことはありませんでした。ただ、それも決して苦痛ではなく使命感へと変化していきました。

クアラルンプールの街には南国の開放感と魅力が溢れていました。咲き誇るプルメリアの甘い香り。枝から枝へと自由自在に駆け回るリスたち。店先に並べられた数十種類の色鮮やかな果物。そして、いつも笑顔を絶やさないマレーの人々。これらが癒しとなり、ゆとりが生まれ、気づきが増えたことも確かです。しかし何より私の意識を変えたのは、「アジアのリーダーは日本」「アジアの未来を担う日本人の子どもたち」というマレーシアの人々の意識です。日々の会話や接し方から彼らの意識を感じるうちに、私のネガティブな意識はポジティブなものへと変化していったのです。「恵まれた環境を生かす使命感」は、「日本の子どもたちの健やかな成長を見守れる幸福感」へと昇華され、現地の人々への感謝が募る日々を送ることとなりました。そして、感謝だけを胸に、2018年3月に帰国しました。

編集後記

ロシアがウクライナに侵攻して以来1年が過ぎてしまいました。ロシア側にもそれなりの言い分があるのかもしれませんが、戦争ではたくさんの方が犠牲になり悲しさと憎しみが生まれるだけです。両国間での平和的解決の糸口はまだ見つからず長期化する恐れがあります。両国の一般市民に罪はありません。NATOや国連も世界平和のために両国間の平和的解決に向けもっと強力で策を講じて欲しいものです。(katsu)

発行：一宮市国際交流協会 (〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市役所本庁舎9階 観光交流課内)

ご意見・ご感想お待ちしております 【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】
当協会に関する情報はウェブサイトをご覧ください。【WEB:https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/ia/】

*この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材・編集されています。

みなさんも国際交流協会親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。